

日本コミュニケーション学会九州支部

第 23 回大会

The Japan Communication Association Kyushu Chapter
The 23rd Annual Convention

大会テーマ：記憶と未来—71年目からの戦争史
Convention Theme: Memories and the Future—Passing Down
War History for Ever After

2016年10月22日(土)
October 22nd (Sat), 2016

第一部

熊本大学 文学部

Kumamoto University. Faculty of Letters

第二部

熊本大学 くすの木会館

Kumamoto University. Kusunoki Hall

(熊本県中央区黒髪 2-39-1 TEL/FAX : 096-342-2436)

アクセス <http://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou>



日本コミュニケーション学会会員各位

下記のとおり第23回九州支部大会を開催致しますので、ご案内申し上げます。どうぞ奮ってご参加ください。

日本コミュニケーション学会九州支部 支部長 池田理知子

大会案内

1. 大会参加者は参加費 1,000 円を当日、受付にて納入してください。
2. 九州支部会員の方は支部大会に必ずご出席ください。
3. 昼食は予約 (1,000 円) するか、ご持参ください。予約は葉書またはメールでお願いします。今回は、皆様に熊本郷土料理をご賞味していただきたく、熊本が誇る名店『隠れ家 おくふいー』に、素材にこだわった贅沢な「特別弁当」を誂えていただくことになりました。ぜひ熊本が誇る食の美味しさをお楽しみください。大変申し訳ございませんが、数量限定のご提供ということで、30 名様に達し次第受け付けを終了させていただきます。
4. 懇親会は 5,000 円です。参加される方は葉書またはメールでお申込みの上、当日受付にて会費を納入してください。10 月 15 日 (土) 以降に申し込みをキャンセルされた場合は会費の全額を申し受けます。
5. 珈琲、お茶、その他の飲み物等は休憩室に準備してあります。ご自由にお取りください。
6. 申し込み・お問い合わせ先
大会実行委員長 平野順也 (熊本大学)
e-mail: jh97t@kumamoto-u.ac.jp

発表者の皆さまへ

1. プロジェクターの機器とパソコンは会場に用意してありますので、データを USB メモリーに入れてご持参ください。また、スライド入力等は、会場後 (9 時 10 分以降) 研究発表までの時間に、ご自分で行ってください。
2. ハンドアウトを準備する場合は 30 部程度ご用意いただき、発表前に配布してください。また、発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。発表時間は厳守してください。
3. やむを得ない事情で発表ができなくなった場合は速やかに大会実行委員までご連絡ください。

スケジュール

- 9:10～ 受付(全学教育棟 3階)
9:30～9:50 開会式 (場所: A棟3階 303)
支部長挨拶: 池田 理知子(国際基督教大学)

第1部

会場: 熊本大学 全学教育棟 A棟2階【202、203】、A棟3階【303】

- 10:00～11:30 研究発表

会場1

	A棟(2階) 202	レトリック1	司会: 平野順也
10:00～10:30	平野順也 (熊本大学)	議論における詭弁的性質の重要性について	
10:30～11:00	張小英 (九州大学地球社会統合科学府修士)	日本語ディベートにおける証拠資料に関する一考察	
11:00～11:30	チン、シンエン (九州大学大学院地球社会統合科学府大学院生)	Reconsidering Toulmin's Model: A Practical Argument Analysis	

会場2

	A棟(2階) 203	対人コミュニケーション	司会: 筒井久美子(立命館アジア太平洋大学)
10:00～10:30	蘭紅艶 (福岡女学院大学)	授業外活動から得たのは?	
10:30～11:00	志岐早苗 (西南学院大学大学院博士後期課程)	人間関係に潜む暗闇 ダークサイドコミュニケーション——日本における「リベンジ」に関する考察	
11:00～11:30	屋部百美子 (沖縄キリスト教学院大学大学院修了生)	多文化共生をめざすカリキュラム開発の視点と課題——沖縄の公立小中学校における日本語教室の実践から——	

11:40～12:00 支部総会（場所：A棟3階 303）

司会：筒井久美子

12:00～12:40 昼休み(昼食)

研究発表会場などをご利用ください。

12:40～14:10 研究発表

会場1

	A棟(2階) 202	レトリック2	司会：清水孝子
12:40～13:10	山上登美子 （日本大学） ヒラリー・クリントンの演説—音声上の工夫に関する一考察		
13:10～13:40	宮下和子 （鹿屋体育大学名誉教授） 原爆投下71年、オバマ米大統領の広島演説を読み解く		
13:40～14:10	清水孝子 （日本文理大学） 占領期の大阪におけるアメリカ映画の受容について		

会場2

	A棟(2階) 203	コミュニケーションと諸問題	司会：五十嵐紀子
12:40～13:10	五十嵐紀子 （新潟医療福祉大学） 介護の魅力発信事業の可能性—魅力発信事業が介護職員自身に与える影響		
13:10～13:40	黒瀬菜々 （西南学院大学大学院博士後期課程） 留学生と日本人教員に対する予測違反理論（Expectancy Violations Theory）の適用—日本語学校における双方の声より		
13:40～14:10	芳野弥生 （西南学院大学大学院博士後期課程） 日本語の特徴と「日本的」コミュニケーションの特徴の相互の関係性—留学生へのインタビューを通して—		

第2部

会場：熊本大学 くすの木会館 レセプションルーム

■ 前半部 [14:30~16:00] 講演：「戦争の記憶：未来に向けて」

【1】 14:30~15:00

戦争体験者による講和：「私の空襲体験」

講演者：赤木 満智子（新老人の会熊本支部員）

〔講師紹介〕

新老人の会・熊本支部員、示現会員、県美術科連盟会員。平和啓発活動に精力的に参加している。戦争体験手記は「あの恐ろしい夜（1）」（『記録：熊本空襲 No.2』）、「あの恐ろしい夜（2）」（『記録：熊本空襲 No.4』）、「熊本大空襲」（『語り継ぐ戦争の記憶』）。自伝『流れの中で』を2014年に出版。また、これまでに三度の個展を成功させ、平成27年7月には回顧展を催している。

〔講演内容〕

第二次世界大戦中に3度の空襲を体験した。一度は出張先の東京で。丸の内駅近くの八階建てのビルに煙が充満する中屋上まで逃げた。2度目は数月後に熊本で。19歳の誕生日の前夜、白川は火の海のように色付いていた。その数日後、再び空襲が熊本を襲う。機銃掃射が加えられるなか泥水の中でうずくまっていた。上熊本駅から植木駅に向かう途中のことである。東京、丸の内、熊本、白川、植木。これらの場所が火に包まれ、多くの人々が命を失った。この悲劇を、その場所にいた一人の体験者として語る。

【2】 15:00~16:00

基調講演：「熊本の戦争遺産を未来につたえる」

講演者：高谷 和生（くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表）

〔講師紹介〕

○くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表・事務局長 ○戦争遺産フォーラムくまもと 事務局長 ○戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員 ○上天草市史編さん委員（龍ヶ岳・姫戸地区） ○玉名市文化財保護審議会委員 ○日本考古学協会員 ○肥後考古学会幹事

2004年より市民グループ「玉名荒尾の戦争遺跡をつたえるネットワーク」を玉名・荒尾市民の方々と結成。2014年には活動の広範化と深化を願い、会名称を「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」に改称。現在は代表・事務局長。

熊日新聞夕刊「きょうの発言」平成27年4月～6月までのコラムを担当し、戦後70年に向けて、命の重さ、ハンセン病問題、戦争遺跡・遺産、地域づくり等をテーマに執筆。県内の空襲・戦災、

戦争遺跡に関わる8保存団体と「戦争遺産フォーラムくまもと」を組織し、戦後70年に戦争と平和を考える講演会「戦後70年 熊本空襲を考える」を開催する。その後は、戦後70年の総括を経て、戦争と平和を考える資料館「ピースくまもと(仮)」の設立に向け、各種団体個人とネットワークを構築し協働活動中。著書・共著：『昭和20年8月15日を語り継ぐ熊本の戦争遺跡』、平和学習のハンドブックとなる『子どもと歩く熊本の戦争遺跡Ⅱ 県北編』『子どもと歩く熊本の戦争遺跡Ⅲ 県南編』、『戦後65年 熊本空襲を語り継ぐ』、『熊本の戦争遺跡』(平成22年熊日出版文化賞受賞)、『熊本の近代化遺産 上・下巻』(平成26年熊日出版文化賞受賞)。

[講演内容]

「戦後70年の熊本の現状分析」と「熊本の戦争遺産概要」を中心に、県内の戦争遺跡との関わりについて紹介する。また、玉名市大浜飛行場での戦跡保存の調査と保存活動、待機中錬特攻隊の記録や証言掘り起こし、8月10日に起きた墜落機米兵への虐待行為、地元の有明中学校でのユングマンプロジェクトの活動取り組みなどに言及し、「戦争の実相や語り」を地域でどのように伝えていくのかについて課題を提示する。

■ 後半部 [16:10~17:40] シンポジウム：「対話：記憶をつないでいくということ」

シンポジスト：

高谷 和生 (くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表)
畠山 均 (JCA 学会員：長崎純心大学教授)
池田 理知子 (JCA 学会員：国際基督教大学教授)

司会：

平野 順也 (JCA 学会員：熊本大学准教授)

[シンポジウム趣旨]

熊本県内に所在する「戦争遺跡」に焦点をあて、戦争遺跡の記録や検証、地域の戦争素材の掘りおこし、後世に平和の大切さをつたえることを目的として活動する「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」の高谷和生氏の基調講演を受けて、戦争遺跡や被害の痕跡がどのようなメディアとなり、何を発信していけるのかを議論することを目的とする。そうしたメディアが誰に、どういったメッセージを発しているのか。メッセージの受け手がそこから何を つないでいけるのか。まず、シンポジスト二人からそれぞれの提言を行い、高谷氏とのやり取りを経て、その後フロアとの対話を重ねていく。

[シンポジスト紹介]

高谷和生 前半部の講師紹介をご確認ください。
畠山均 長崎純心大学人文学部英語情報学科教授。同学科長。異文化コミュニケーション、対人コミュニケーション、英語（Reading）を担当。文化理解、対人関係、英語教育をコミュニケーションという共通の視点から研究。著書は『教養としてのコミュニケーション』（2006）北樹出版（共著）、『人・言葉・社会・文化とコミュニケーション』（2008）北樹出版（共著）など。
池田理知子 国際基督教大学教養学部教授。「公害」を伝えることの意味についての研究を行っている。主要著作は、『時代を聞く——沖縄・水俣・四日市・新潟・福島』（共編著、2012、せりか書房）、『シロアリと生きる——よそものが出会った水俣』（単著、2014、ナカニシヤ出版）、『日常から考えるコミュニケーション学——メディアを通して学ぶ』（単著、2015、ナカニシヤ出版）、『空の青さはひとつだけ——マンガがつなぐ四日市公害』（共編著、2016、くんぷる）、『よくわかるヘルスコミュニケーション』（共編著、2016、ミネルヴァ書房）など。

[発表内容]

畠山均 原爆投下により長崎純心大学（旧：長崎純心高等女学校）が受けた被害と戦争の悲惨さを中心テーマとした平和教育について、長崎純心大学が語り継いできた被爆体験とそれを基本とする平和教育の在り方、さらにそれがどの程度学生に伝わっているかについて論じる。
池田理知子 資料館において戦争の記録を展示し、記憶をつなぐことの意味を問い直したい。具体的には、四日市にある公害資料館「四日市公害と環境未来館」に展示されている戦前・戦中の暮らしを模した展示と、高度経済成長期の暮らしを写しとった「模型」の展示を比較し、なぜ前者に来館者が注意を払わないのかを考える。戦争と公害のつながりを考えることは、戦争を現代の問題として考えるうえで重要だと思われるが、それが成功していないのはなぜなのかを論じていく。

18:00~20:00 懇親会 Trattoria Salute (トラットリア・サルデーテ) 会費 5,000 円

乾杯：畠山 均 （長崎純心大学）

アクセス

全学教育棟：

バス停「熊本大学前」から、徒歩3分。



くすの木会館：

全学教育棟裏の建物になります。

